

(一社) 日本橋梁建設協会における技術者育成の取組み (ブリッジトーク)

(一社) 日本橋梁建設協会 広報委員会 正会員 ○白石 薫 保全委員会 本間 順
近畿事務所 大川 隆志 業務部 清水 秀信

1. はじめに

(一社) 日本橋梁建設協会 (以下 橋建協) は、昭和 3 9 年の発足以来、鋼橋の建設を通じて社会に貢献することを目指し、「安全・安心な街づくり」「品質の確保」「環境保全活動」「人材の育成」「地域とのふれあい」の 5 つの誓いを協会の役割として定め、明るい未来と夢の実現に向けて活動してきたところである。今後も引き続き『鋼橋の良さ』『橋の長寿命化』『技術の伝承と人材育成』『海外事業の拡大』に取り組んでいくことにしているが、その中で、参加会社社員、中でも若手社員の人材育成を主目的として、協会内勉強会を開催している。ここでは、ブリッジトークについて紹介する。

2. ブリッジトークの概要

橋建協では、協会内の『技術の伝承と人材育成』を目的として対外的な各種勉強会対応 (学校への出前講座、各種団体に対する技術講習会講師派遣、小学生を中心とした現場見学会など) を行っている。

しかし、協会内でも教育のチャンスが必要との声があったことから、平成 2 1 年度より会員各社への情報発信、若手技術者のレベルアップを目的とした、「橋建協ブリッジトーク」を行うこととなり、昨年度まで 5 1 回が開催され、若手技術者のみならず橋梁事業に携わる多くの人員が参加をしている。

協会内横断的に「ブリッジトークWG」を組織し、年度内の方針からテーマ選定、講師依頼まで行うことでより良い人材育成講座となる様、推進をしている。

3. 2018年度ブリッジトーク

2018年度に行われたブリッジトークを紹介する。次表の通り 4 回開催されているが、今年度は初の試みとして、講師・参加者双方の対話を重視した講義を行っている。

表 1 2018年度 ブリッジトーク開催概要

No.	開催日	場所	テーマ	講師所属
1	2018年7月18日	本部(東京本部)	土木の見方(捉え方)	千葉工業大学 (一社)ツタワルドボク
2	2018年12月13日	本部(東京本部)	橋を楽しもう 全国の珍橋・奇橋	東京都 道路建設部
3	2019年2月28日	大阪(近畿支部)	Dream.Vision.Innovation・土木のあり方	阪神高速道路(株)建設・更新事業本部 神戸建設部 (一社)ツタワルドボク
4	2019年3月4日	本部(東京本部)	開通後の鋼橋ー神奈川の首都高速道路ー	首都高速道路(株)神奈川管理局 調査・環境課

4. ブリッジトーク開催事例

- ・日時：2019年2月28日 (木) 14:00~17:00
- ・場所：大阪市内貸会議室
- ・講師：阪神高速道路株式会社 建設・更新事業本部 神戸建設部 部長 金治 英禎 様
一般社団法人 ツタワルドボク 会長 片山 英資 様
- ・テーマ：当たり前を創出し、当たり前を当たり前であり続けさせる土木。その重要性和魅力は市民に十分な理解を得られていない。これまで経験をしたことの無い豪雨・地震等の大災害、既供用区間の大規模な維持管理が増える中、現場での合意形成は難易度を高め、若手技術者の土木離れが技術継承の問題を引き起こす。では我々土木技術者は何をしてきたのか。何をすべきか。

キーワード 橋と社会 普及・啓発 育成・継承 ビジネス 橋のあり方
連絡先 〒105-0003 東京都港区西新橋 1-6-11 (一社) 日本橋梁建設協会 TEL03-3507-5225

これらの問題について、若手の夢を後押しすべく、高速道路事業における道路建設、維持管理についての経験を通じ、これからの土木に必要な計画（ビジョン）・施工（イノベーション）について、講演、両氏による対談及び受講者との自由討議が行われた。（参加者58名）



写真 ブリジットーク状況

5. 参加者からの評価

ブリジットークWGは開催後アンケート調査を行い、今後開催へのフィードバックとしている。ここに今年度開催時に寄せられた声を一部紹介する。

- ・新入社員で分からないことが多すぎて、講習についていけるか不安だったが、講義内容も分かりやすくこれからどのように技術者として過ごすか参考になった。
- ・業務に追われて「土木」について普段考える事がなかったが、とても有意義な話が聞けて、土木の魅力を自分自身再確認できた。学生向きに話をしたら良いと思う。
- ・市民へのアプローチの重要性について共感した。
- ・橋梁についてこんなに種類があることに大変驚いた。やはり個性的な橋には観光資源としても潜在的に大きな魅力があるように感じられた。
- ・最近は省力桁が多い中、たくさん変わった橋を紹介いただいたこと。視点（見る場所）を変えるだけで全く違う表情を見せてくれる橋が多いことに驚いた。
- ・普段劣化による損傷、補修点検の講話についての話はよく聞くが、交通事故による施設の損傷を聞いたのは参考になった。
- ・高速道路の歴史について知らないこともあり参考になった。
- ・難しいイメージが付きやすい土木を多くの人々に分かりやすく伝えていくためにはどうするか？世間の土木に対するネガティブなイメージの改善が大切だと思う。
- ・これだけ個性的な橋がたくさんあるので事例紹介だけでなく、今後において個性的な橋を増やすための発注者側、受注者側の取組について議論があれば良いと思った。
- ・もう少し損傷に対する原因についての話が聞きたかった。鋼橋技術としては少々物足りない。
- ・Bランク補修に挙げられるき裂や塗膜劣化等に対して、どのような補修計画を立てているのかももっと聴ければ良かったと思う

6. まとめ

2018年5月現在橋建協所属会社に在籍している技術者は、約5千名、資格を取得している技術者は3千5百名ほどである。ここ数年での減少は甚だしく、担い手確保のためには入職者の推進と共に離職者の歯止めが大変重要と考えている。

そのために橋建協では、橋梁事業の貴重さ、面白さ、やりがいの高さを若手社員に伝えるべく活動をしていく所存である。ブリジットークは中心のコンテンツとして推進していくことにしている。今後もチャンスがあればこのような場面でご紹介していきたいと考えている。

これまでの講師の皆様に感謝を申し上げます。また、協会内各社の関係者についても引き続きのご協力をお願いしたい。